広島市立広島市民病院広報紙

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine
Kagayaki

No.41
令和５年12月

編集・発行
広島市立広島市民病院
〒730-8518 広島市中区基町7番33号
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514
HP http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/

コロナ禍を乗り越えて

広島市立広島市民病院
副院長
岡本　良一

2019年12月に中国武漢で広まった新型コロナウィルス感染症（COVID-19）は2023年３月の世界集計終了時までに感染者数６億人を超え、死者数680万人と歴史上最大のパンデミックとなりました。当院でも2020年３月７日に広島県第１例目とされる症例に遭遇して以来、主に重症患者、合併症を持つ患者、妊婦等を中心に1000名を超える入院患者に対応してきました。2023年９月の現時点においても第９波のまっただ中にあり、救急外来を中心として、外来、入院での対応が続いています。また2022年８月には複数の病棟で多数の職員を含むクラスターが発生し、診療制限をせざるを得ない状況となりました。しかし、多くの病院が現在に至るまで大規模クラスターにより診療制限を繰り返している中で、当院はその後一度も大きなクラスターを発生させることなく、年末年始、それ以降もほぼ通常の診療を続けていることは特筆すべきことです。また中７病棟をコロナ病棟として運用しているにもかかわらず、コロナ前とほぼ同様の手術を含めた通常の診療業務を回復しています。これはコロナ以前よりも効率的な病棟運用を行えるようになったということです。

今回のパンデミックを経験して特に強く感じたのは、当院職員のいざというときのたくましさ、頼りがいです。呼吸器内科、総合診療科、麻酔科の医師をはじめとして、様々な基礎疾患のある患者が多かったために、多数の科の医師、特に研修医をはじめとした若い医師、看護師、レントゲン技師、リハビリスタッフなどがまさに「ワンチーム」となって対応してくれました。かがやき第35号で若い研修医たちが救急外来診療においていかに活躍しているか、スペシャリストの専門医では到底カバーできない幅広い範囲の救急疾患に対応してくれていることを書かせていただいたが、今回のコロナ対応も今までの知識や経験がほとんど役に立たない新しい疾患であり、若い職員の知識欲旺盛で柔軟かつ度胸のある対応が本当に病院を救ってくれたと感じています。

コロナとの戦いの中で患者さんおよびお見舞いの方々には本当に不自由な思いをさせてしまい心苦しく思っています。病室に見舞いに来られた家族からの入院患者の感染、プロムナードで面会して感染した患者さんなどのケースがあり、９月現在でも原則面会禁止と西側玄関およびアストラムラインからの出入り口を閉鎖したままでありご不便をおかけしています。ワクチン接種した健康な方にとっては、コロナは当初ほどの恐ろしい病気ではなくなっていますが、当院の入院患者は重篤な基礎疾患をもっている場合が多いので、たとえワクチンを打っていても感染が致命的となることがあり、世間一般とは大きく異なった対応をせざるを得ない点をご理解いただきたいと思います。

今回のパンデミックではいろいろな苦労がありましたが、そうした中でも当院の底力、結束力、若い力の台頭など将来に向けての大きな希望が見えたのは不幸中の幸いです。また職員のみならず、患者さん、ご家族の協力もあり、現在診療レベルをほとんど落とすことなく、通常の治療が行えていることは当院の誇りです。今後もいかなる新興感染症が発生しても職員、患者等が一丸となって乗り越えていけるものと信じています。

副院長就任のご挨拶

広島市民病院 副院長
國弘真己

日頃より広島市民病院にご高配を賜りありがとうございます。

このたび、2023年４月１日付で、副院長を拝命いたしました國弘真己と申します。私は、1990年に広島大学を卒業し、広島大学第一内科（現　消化器内科）に入局し、消化器内科医師として消化管疾患を中心に研鑽を行って参りました。

広島市民病院では、2013年４月から内科部長として、主に大腸疾患、内視鏡検査、内視鏡治療、炎症性腸疾患を中心に診療に従事しています。また、2018年からはCEセンター主任部長、2021年からは栄養室室長を努めさせていただきながら、病院スタッフの一員として地域医療に従事してまいりました。

私が医師になってからの約30年の間に、消化器疾患の中ではいくつかの大きな出来事がありました。「C型肝炎ウイルス」と「ピロリ菌」の発見により、「C型慢性肝炎薬物療法」および、「ピロリ菌除菌治療」が進歩し、「肝臓がん」や「胃がん」の死亡率が低下しつつあります。また、「潰瘍性大腸炎」や「クローン病」などの炎症性腸疾患においても、生物学的製剤、JAK阻害薬などの新規薬剤が次々に開発され、患者数は増加しているにもかかわらず、いわゆる難治症例や外科手術例も減少傾向にあります。しかし残念ながら、「大腸がん」については、ポリペクトミーからESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）まで内視鏡治療法が進化しているにもかかわらず、死亡率の低下には至っていません。本邦では、便潜血検査や大腸内視鏡検査などの検診受診率の低さが依然問題として残っています。今後、大腸がんについては、特に若い世代での検診率向上の啓蒙と受け皿としての大腸内視鏡検査・治療などの診療体制の整備、および、将来を担う若い大腸内視鏡専門医師の育成などについて当院でも尽力していきたいと考えています。

昨年（2022年）８月に当院は開設70年を迎えました。現在、診療科目は37科、病床数は743床を有する総合病院として、皆様に高度急性期病院としての医療を提供させていただいております。これからも当院の基本理念である「地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行う」ことができるように努力する所存でございます。引き続き、広島市民病院を宜しくお願い申し上げます。

新しい治療について

循環器内科
川瀬共治

循環器内科の川瀬共治です。当科で2022年10月より開始された経皮的僧帽弁形成術（経カテーテル的僧帽弁クリップ術）につき報告させていただきます。

日本の総人口は2010年以降現在も減少しているにも関わらず、高齢者人口の割合は増加の一歩をたどり、皆様がご存じのように2040年まではまだまだ高齢者人口の割合は増加します。当然心不全患者さんの数は増加し、心不全パンデミックと認知されています。心不全の原因として弁膜症も大きく関与しており、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）が当院でも2016年以降導入され、その手術件数は広島県ではトップクラスなのは既知の通りです。

一方僧帽弁逆流症の治療としては、これまでは薬物治療や外科的開胸手術が主でした。薬物治療では、心不全を軽減させる薬を使用しますが、逆流を来たしている弁自体を直接治療できるわけではありません。外科手術は根治術ですが、ご高齢や重篤な合併症をお持ちの方など、手術の危険性が高ければ実施が難しいことがあります。

経皮的僧帽弁形成術とは、MitraClip NTシステムを用いて行われる僧帽弁逆流症に対する血管内カテーテル治療を示します（図１）。本邦では2018年４月を以て保険償還となり実施可能となりました。本治療ではMitraClip NTシステム用いて、閉鎖が不十分になっている僧帽弁をクリップで挟み込むことで逆流を制御しますが、開胸や人工心肺を必要としないので体への負担が少なく、ご高齢や合併症をお持ちの、開胸手術の危険性が高い方が主な治療対象となるのが特徴です。

本治療は全身麻酔下で行われ、足の付け根にある太い静脈（大腿静脈）にカテーテルを入れて施行します。心臓内でのカテーテル操作に際して、経食道心エコー、及びＸ線透視の併用が必須です。要する時間は約２～３時間前後で、術後は集中治療室で経過観察し、通常は翌日には一般病棟へ移ります。術後入院期間は４～５日程度です。治療が成功すれば、従来の開胸による手術と同等の症状と予後の改善効果が期待されます。

しかしながらこの手術、カテーテルで行える低侵襲手術とは言え、かなりの人数の協力が必要となるチーム医療です。実際の手技に携わる循環器内科４名（図２）、経食道超音波検査に循環器内科＋臨床検査技師の計３名（図３）、麻酔科医１～２名、放射線技師２名、臨床工学士と看護師２～３名と、少なく見積もっても12名以上は必要となります。月に２例のペースでハイブリッド手術室にて施行しております。

現時点でのこの治療の適応となる患者さまは、重症の僧帽弁閉鎖不全をお持ちの80歳以上の方、80歳以下でも心臓以外の合併症のために開胸手術の危険性が高い方です。循環器内科と心臓外科で検討して適応を判断しております。

心不全パンデミックのため弁膜症の患者さんが増加する中で、このように治療の選択肢が増えたということは、日常臨床に非常に重要な意味を持ち、何しろその恩恵を受けられて、元気に退院される患者様を診させていただくことは感無量です。

最後にこのような低侵襲な先進カテーテル治療が広島県で２番目に当院でも使用可能にするため御協力いただいた、ハートチームのメンバーに感謝の意を表して報告を終わらせていただきます。

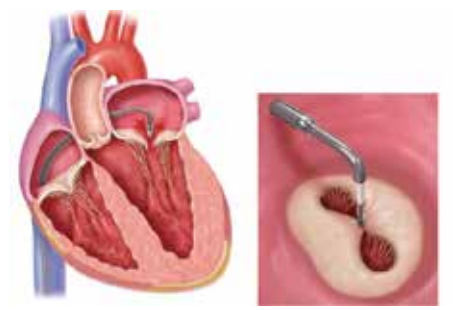

図１　MitraClipシステム

図２　実際の手技に携わる循環器内科医

図３　術中経食道超音波検査担当医

FAXコーナー廃止と院外処方について　薬剤部

令和５年９月30日をもちまして、広島市薬剤師会により設置・運営されていました「院外処方せんFAXコーナー」事業が終了することとなりました。これは、機器の老朽化に伴う修理部品の入手困難、FAX送信件数減少などの状況を鑑みた結果となります。今後につきましては、保険薬局（院外薬局）へ処方せんを持ち込む方法について（直接来局、電話連絡、電子メール、LINE等による画像送信など）、保険薬局とご協議いただきますようお願いいたします。ご不便をおかけして申し訳ありませんが、何卒よろしくお願いいたします。

さて、院外処方にはメリットが多数あるのですがご存知でしょうか？一番のメリットは、保険薬局薬剤師による充実した薬歴管理、服薬指導を受けられることです。保険薬局では、処方せんに記載されたお薬だけでなく、今までに服用したお薬や、現在服用中の他のお薬（市販薬・サプリメント等を含む）まで考慮して、お薬によるアレルギーや副作用、飲み合わせについて、適切な助言が受けられます（薬歴管理）。もちろん処方せんに記されているお薬の詳しい説明も聞けます（服薬指導）。そのため、より安全にお薬を服用することができます。また、事前に処方内容を伝えておくことで待ち時間の短縮を図ることが可能であること、院内処方と比べて後発品への変更が容易であることもメリットとして挙げられます。さらに、顔なじみの保険薬局薬剤師を「かかりつけ薬剤師」に決めておくと、休日や夜間など薬局の開局時間外にも電話で薬の使い方や副作用、医療機関への受診などについて相談することができます。ぜひ、お住まいの近くにかかりつけの薬局を持ち、信頼できる薬剤師を決めて、ご活用ください。

ボランティアコンサート

当院では、患者さんやご家族の方に安らぎと憩いのひとときを過ごしていただこうと、当院の「医療の質改善委員会」がボランティアコンサートを実施しています。

令和２年に新型コロナウイルス感染症が流行してから中止していたボランティアコンサートについて、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられたことに伴い、今年度から再開いたしました。

今年度の第１回目は、７月３日に１階プロムナードで、「二胡　七夕コンサート」を開催しました。二胡奏者の姜 暁艶先生と、元当院職員で結成した「にこにこクラブ」の皆さまが出演してくださり、優雅で繊細でありながら、力強く迫力もある二胡の音色で来場された方々を魅了していました。

第２回目は、９月14日に１階プロムナードで、「癒しのフラコンサート」を開催しました。県内で活動されている「カ・パー・フラ・オ・カハラオマープアナ」の皆さまが出演してくださり、華やかでもありながら、優雅な動きで来場された方々を魅了していました。

次回のコンサートは、12月11日に10階講堂で二胡クリスマスコンサートを開催する予定です。

今後も様々な活動を通じて、患者さんに安らぎの場を提供して参りますので、機会がございましたら是非お立ち寄りください。

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組むことが必要です。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科／火曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始（12月29日～1月3日）

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科7,700円、歯科5,500円（R４年10月から）のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。